

東北地方 3か月予報

(10月から12月までの天候見通し)

平成17年9月22日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
この期間の平均気温は高い、降水量は平年並でしょう。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は高い、降水量は東北日本海側では平年並か少ない、東北太平洋側では平年並でしょう。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

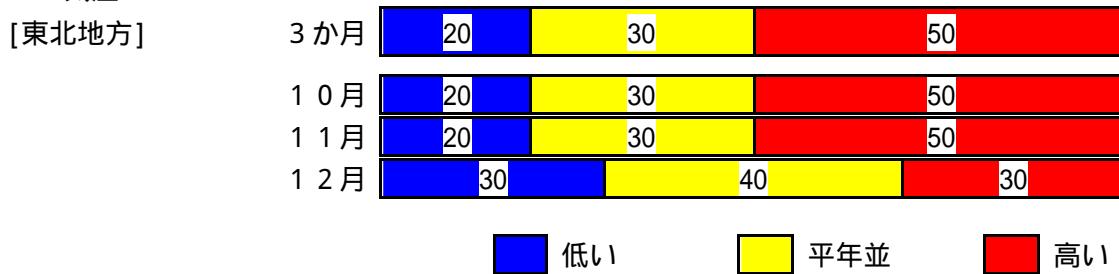
気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多いでしょう。

12月 冬型の気圧配置となる日が多く、一時強い寒気の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

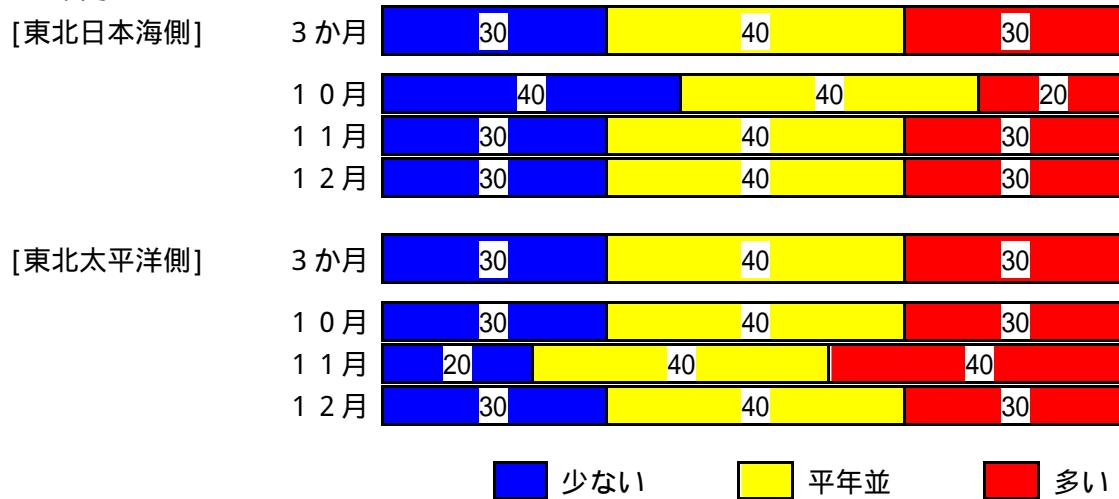
気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

<<気温>>



<<降水量>>



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は9月23日

3か月予報：10月25日(火曜日) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量、降雪量)

	気温()				降水量(mm)				降雪量(cm)			
	10月	11月	12月	10~12月	10月	11月	12月	10~12月	10月	11月	12月	10~12月
大船渡	13.8	8.2	3.5	8.5	142.3	104.5	36.9	283.7	-	2	11	13
新庄	12.3	6.2	1.4	6.6	151.9	195.4	210.9	558.2	-	28	168	195
若松	13.2	7.0	1.9	7.4	77.6	73.3	83.3	234.1	-	9	100	109
深浦	13.3	7.5	2.5	7.8	165.6	147.2	126.2	438.9	0	13	77	90
青森	12.6	6.4	1.3	6.8	106.0	131.7	148.6	386.2	-	40	170	210
むつ	12.2	6.3	1.2	6.6	115.4	115.4	93.3	324.0	-	21	101	122
八戸	12.7	6.6	1.6	7.0	77.0	61.2	41.7	179.9	-	8	52	60
秋田	13.6	7.6	2.8	8.0	160.7	183.5	163.8	508.0	-	13	79	92
盛岡	11.8	5.7	0.8	6.1	97.8	93.1	64.5	255.4	-	11	68	80
宮古	13.1	7.7	3.0	8.0	105.7	85.6	39.9	236.2	-	1	19	20
酒田	14.7	9.0	4.3	9.3	173.7	223.9	201.9	602.2	-	10	64	74
山形	13.2	7.2	2.4	7.6	76.0	80.8	77.2	234.0	-	12	92	104
仙台	14.8	9.1	4.3	9.4	99.2	66.8	26.4	192.4	-	1	14	15
石巻	14.2	8.3	3.4	8.6	104.1	65.1	24.8	194.0	-	1	7	7
福島	14.8	9.0	4.2	9.3	95.3	63.4	32.5	191.1	-	2	35	37
白河	13.2	7.6	2.7	7.8	111.9	65.0	25.0	201.9	-	2	25	27
小名浜	16.1	10.8	6.1	11.0	153.1	87.7	35.0	275.8	-	0	1	1

(2) 1971~2000年のデータに基づいた10~12月地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	10月	11月	12月	10~12月
気温平年差()	東北地方	-0.6~+0.3	-0.3~+0.5	-0.3~+0.5	-0.3~+0.5
	東北日本海側	-0.6~+0.4	-0.3~+0.5	-0.2~+0.6	-0.3~+0.5
	東北太平洋側	-0.4~+0.3	-0.3~+0.6	-0.1~+0.5	-0.3~+0.5
降水量平年比(%)	東北地方	83~105	80~107	80~107	90~106
	東北日本海側	88~107	92~103	88~106	90~110
	東北太平洋側	63~113	68~111	69~116	87~103
降雪量平年比(%)	東北地方	----	45~86	72~112	70~104
	東北日本海側	----	45~114	78~113	78~110
	東北太平洋側	----	27~60	57~114	59~109

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 3か月予報解説資料(10~12月)

平成17年9月22日 仙台管区気象台

1. 数値予報(アンサンブル予報)による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図(右図):

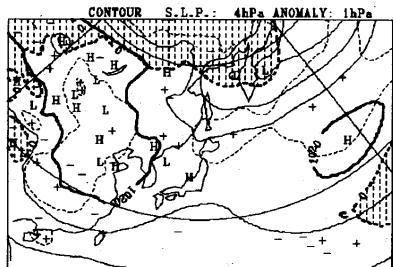
日本付近を含め北半球は広く正偏差で高温傾向が予想される。

月別の地上気圧と偏差の予想図(下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。):
10月: 関東の南に低気圧や前線に対応する等圧線のくびれが見られる。東北太平洋側では周期的に前線や低気圧の影響を受けるが、東北日本海側では影響は小さく、平年に比べ晴れの日が多い。

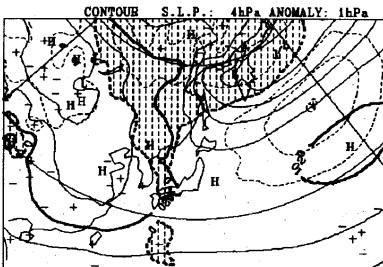
11月: 日本の東海上で高気圧が強く、日本付近は暖かい空気が入りやすい。日本付近の等圧線はまばらで低気圧と高気圧が交互に通過する見込み。冬型の気圧配置にはなりにくく寒気の影響は小さい。気温は高く、平年に比べると東北日本海側は晴れの日が多く、東北太平洋側は曇りや雨の日が多い見込み。

12月: 日本の北の北緯50度付近では、ベーリング海の低圧部、大陸の高圧部共に平年より強く、冬型の気圧配置が強い。日本付近も北日本中心に一時冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が南下する見込み。

S.L.P. AND ANOMALY

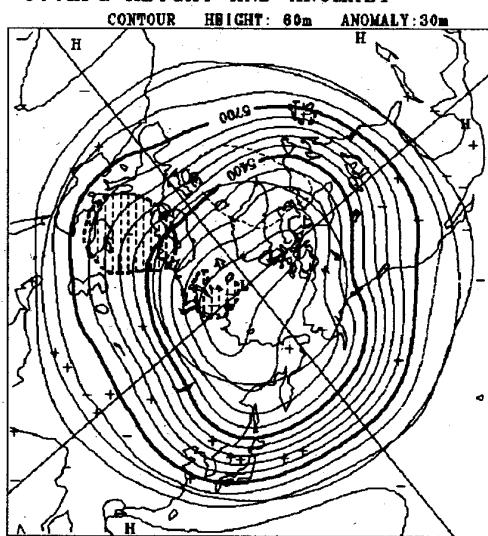


S.L.P. AND ANOMALY



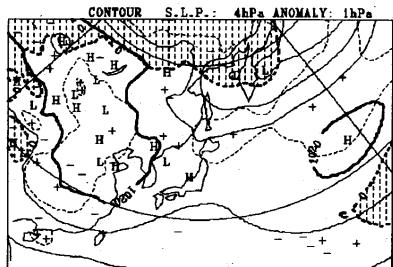
3 MONTH MEAN (10/ 1-12/31) N:31

500hPa HEIGHT AND ANOMALY

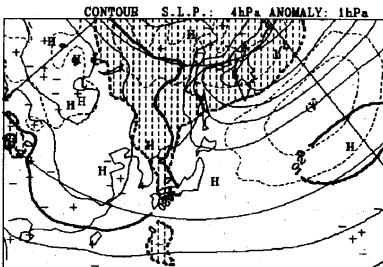


3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図
等高度線: 60m、偏差: 30m、陰影部: 負偏差

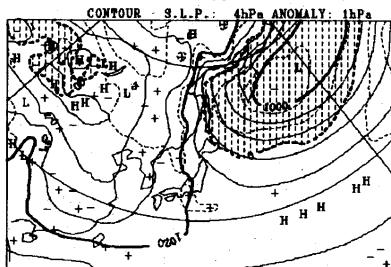
S.L.P. AND ANOMALY



S.L.P. AND ANOMALY



S.L.P. AND ANOMALY

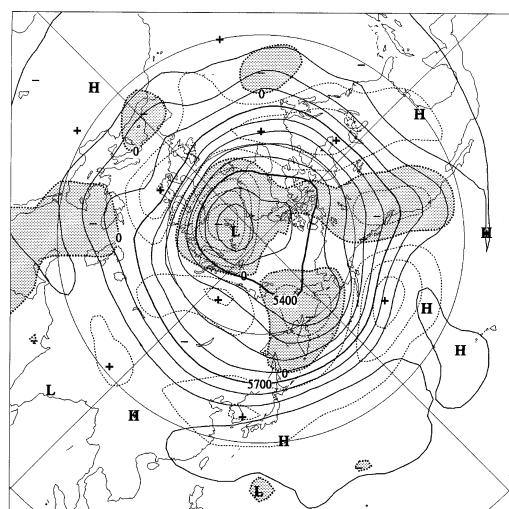


月別の地上気圧と偏差の予想図(左から10月、11月、12月)

等圧線: 4hPa、偏差: 1hPa、陰影部: 負偏差

2. 循環場の特徴

9月1~20日: 500hPa高度では、極付近で負偏差となっており寒気が蓄積している。一方中緯度では正偏差が続いている。暖かい空気に覆われている。極東域では、中国大陸から太平洋にかけての中緯度が広く正偏差となっており、東北地方も高温となった。

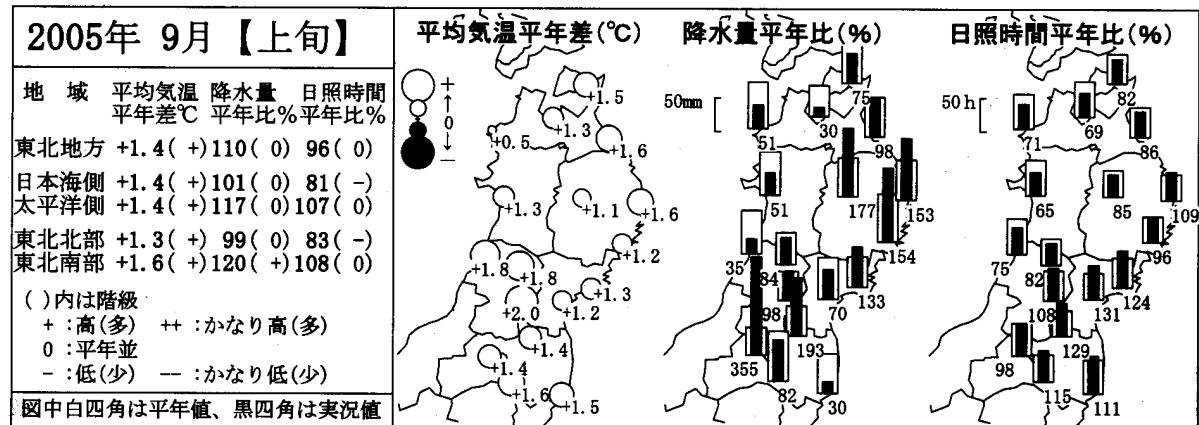


9月1~20日平均500hPa高度
等高度線: 60m、偏差: 30m、陰影部: 負偏差

3. 最近の天候経過

9月上旬：前線や台風第14号の影響で東北日本海側を中心に曇りや雨の日が多くったが、旬の初めと終わりは高気圧に覆われ晴れた。7日は台風第14号が日本海を北上したため、各地で強風となり、りんごの落果や鉄道やフェリーの運休などの被害が発生した。

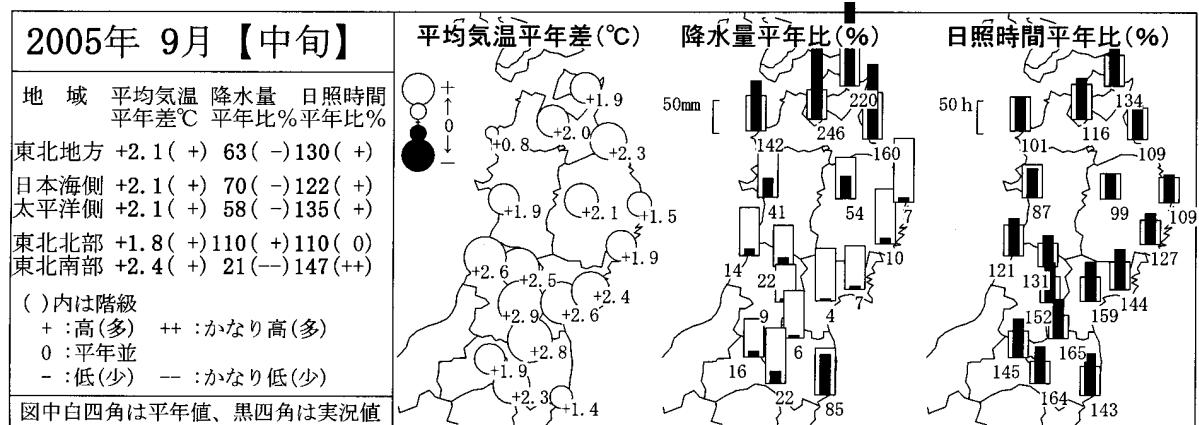
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。



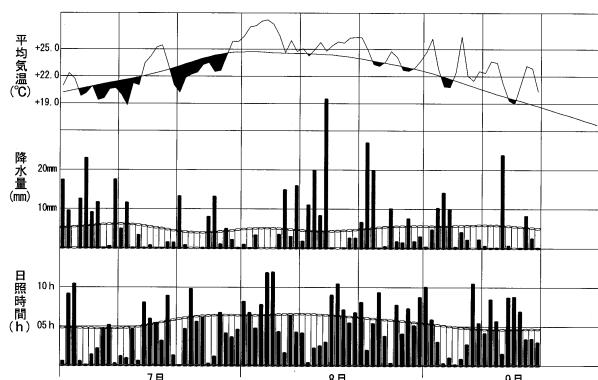
東北地方における9月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

9月中旬：高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多くった。東北北部では台風第15号から変わった低気圧の通過や前線の通過で大雨となる日があった。

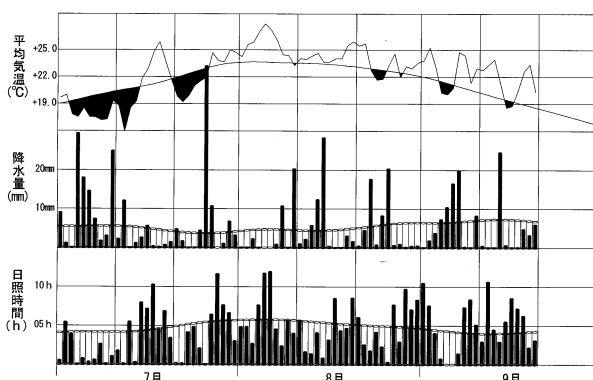
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。



東北地方における9月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報(No.156)より抜粋。(気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ全域で正偏差が見られたが、東部の海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)では水温の負偏差が卓越していた。対流活動はほぼ全域で平年並だった。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、秋に基準値(1961~1990年の30年平均値)に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移するとみられる。予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。

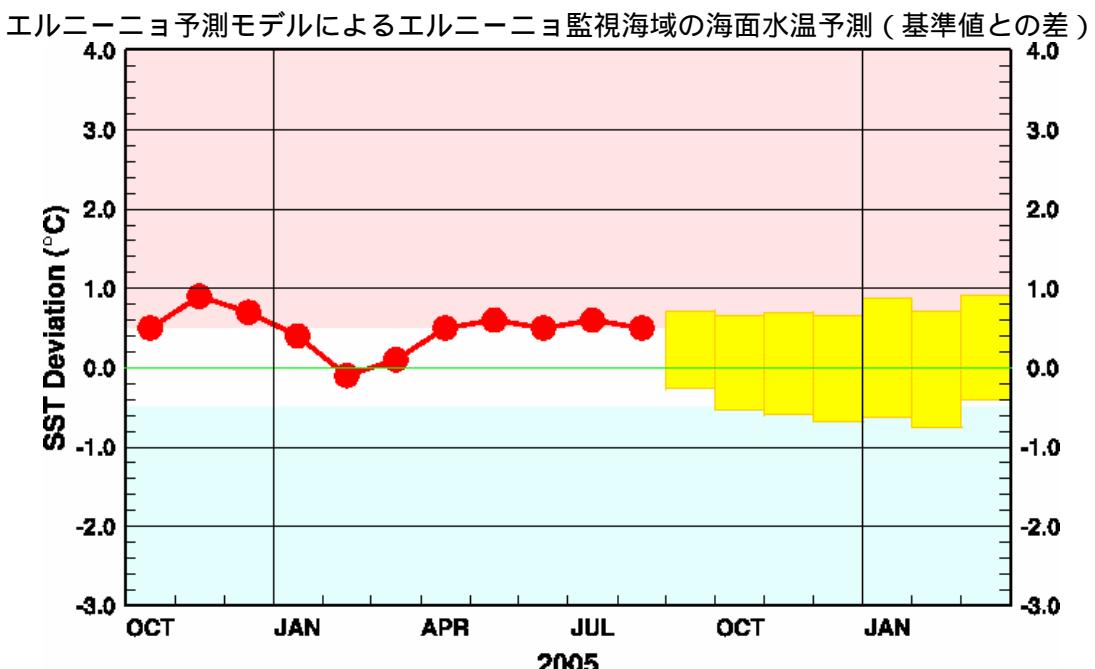
【解説】

太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ全域で平年より高かった。8月のエルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差は+0.5となり、4月以降ほぼ同じ値で推移している(下図)。しかし、東部赤道域の水温正偏差は海面付近に限られ、海洋表層ではむしろ負偏差が卓越していた。また、8月に入って中部太平洋の一部では海面水温偏差が負に転じた。太平洋赤道域の8月の対流活動はほぼ平年の状態に近く、中部では下層の風も平年並だった。日付変更線以東では8月中旬に一時的に西風偏差となつたが、下旬には太平洋赤道域のほぼ全域で東風偏差となつた。

このように、現在までの太平洋赤道域の大気および海洋表層の状況からは、東部の海面水温正偏差をさらに強める要因は見られない。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が秋に基準値に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移すると予測している(下図)。

以上のことから、監視海域の海面水温は、秋に基準値に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移するとみられ、予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低いと判断される。



この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温(基準値との差)の先月までの推移(折れ線グラフ)とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測(ボックス)を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が70%の確率で入る範囲を示す。(基準値は1961~1990年の30年平均値)

<参考資料>

平年の天気出現日数(日)

	10月		11月		12月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.8	17.6	9.2	17.7	5.4	18.7
雨の日	13.0	8.8	15.8	8.1	19.1	6.6

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。